

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772100624		
法人名	株式会社 アフロサービス		
事業所名	グループホーム みずいろの郷		
所在地	福島県本宮市本宮町館町122-1		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成27年3月7日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭菜園でできた野菜や代表者が作っている米や野菜を使い食事を提供している。・利用者様から外出の希望があった際には、出来るだけ希望に沿うように支援している。・利用者様と出来るだけ共同で行う事を心がけている。・年1回は、ご家族様にも参加していただける行事を企画している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、職員の要望・意見を聞き働きやすい環境を整え、職員の定着率が高く、利用者が安心してその人らしい暮らしができるようにしている。利用者や家族の意見・要望をいつでも聞ける雰囲気を作り、柔軟に対応しケアの質の向上につなげている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内やホール廊下の壁に理念を掲示し、職員全員が理念を理解し実践につなげるように日々努力している。また、ミーティング(朝・夕)や毎月定期的に全体ミーティングの話し合う場を設けている。	地域密着型サービスの意味を理解し、利用者の視点に立ち地域との交流を図っている。職員一人ひとりが理念を確認し、利用者とは話す機会を多くしたり、近所の方が定期的に行事に参加してくれるなど、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事に参加して頂いたり、地域の行事に積極的に参加している。また、近隣の方には散歩時等に挨拶をしたり、ホームで作った野菜や料理等を届けたりして交流を深めるよう努力している。	町内会に加入し、回覧板を回すなど地域の一員として交流している。音楽ボランティア・図書ボランティアや、中・高校生の職業体験などを受け入れられている。事業所周辺の雪かきを行ったり、草刈りを行うなど地域の役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域等の学生ボランティアを受け入れたり、地域での行事(芋煮会、祭り)へ参加するように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況やホームでの行事・利用者様の生活の様子等を報告している。ホームでの問題点や課題について情報交換をしたり、意見を頂いている。	会議の中で、地域の行事や新年会に参加したらどうかとの意見をいただき、参加したいと考えている。民生委員や医療関係者・家族の方に会議に参加していただけるよう、働きかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様について相談したり、運営推進会議前後には連絡を取り合っている。	日ごろから、事業所の情報を交換し、連携を取っている。退院後の入居者に、訪問看護の受け入れが可能なかを問合せするなど、相談している。本人・家族の要望を、包括支援センターと話し合い、連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為について全職員が理解し、身体拘束の無いケアを心がけている。	身体拘束はしないことを基本にしている。外に出たがる利用者には寄り添い、見守りながら一緒に行動している。拘束をしないケアの研修会に参加し、ミーティングで話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、虐待が見過ごされないように注意をしつつ防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を設けていき、必要と思われる利用者様には活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族や利用者様へ説明を行っているが、不明な点や疑問点があれば、随時説明する事も伝えている。また、ご家族様へは不安な事や心配な事があれば、ホームへいつでも連絡するようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様が意見や要望を気軽に話す事ができるようにコミュニケーションを大切にしている。面会時やご家族様へ連絡をした際には、話し出しやすい会話を心がけている。何かあれば、職員間で話し合うようにしている。	利用者・家族の方が意見や要望をいつでも気軽に言える雰囲気を作っている。入居して間もない利用者さんが不安になったときは、家族からの手紙を読んでほしいとの提案があり、落ち着くなど、ケアに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者を含め職員ミーティングを月1回開催している。その際、職員からの意見を聞いたり情報交換をし、情報の共有化に努めている。	歯磨きや、コップの消毒を定期的にしてはとの意見が出され、話し合いケアに反映させている。排泄について提案があり、状態に応じて薬やヨーグルト・オリーブオイルを使用するなどしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員から何かあればいつでも聞く機会を設けている。或いは管理者へ相談し、管理者から代表者へ報告するようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者から代表者へ職員の実績と力量を報告し、それぞれに合った研修会へ参加するようにしている。また資格習得するように働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国や県のグループホーム協会に入って、情報交換をするよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	問い合わせや申し込み時等にご家族様と話すようにしている。その際に困っている事や不安な事を聞くようにし、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせや申し込み時にご家族様と話す機会を設けている。ご家族様が困っている事や不安な事を聞き、信頼作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせや申し込み時、現在必要としている支援をご家族を含め関係者と話し合うようにしている。ご本人様の考えや要望を伺い、必要と思われる支援を行うよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来る事は職員と一緒にいたり、得意な事を教えて頂きお互いに支え合う関係を構築するよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や通信で利用者様の近況やホームでの様子を報告している。身体の状態に変化があれば、適時電話で報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みの人が面会へ来て頂けるようご家族へお願いしたり、来所した際には、いつでも面会や電話等をしてもらえるようお願いしている。また、利用者様が利用していたお店へ行くよう努力している。	教え子や友人、謡の会の仲間が訪ねてきてくれ、部屋と一緒に楽しい時間を過ごしている。家族や美容師のお孫さんが定期的に訪ねてきて、一緒に外食をするなど、なじみの関係が継続できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士を見極め、ホーム内の生活の場で孤立しないようにしている。孤立してしまいそうな利用者様には、職員が仲介をする等して工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時にいつでも相談等にも対応する事を伝えている。退居後、自宅へ訪問したり、電話等をして今までの関係を大切に努力をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前にはご家族やご本人の希望等を伺い、出来る限り希望に沿った生活を営めるように支援している。また、日常の会話の中でも本人の希望や要望を聞きだすように努めている。	家族の協力を得たり、日ごろから利用者と一緒に過ごす時間を多くしたり、入浴中のリラックスした中で話してくれること等表情を見ながら思いや意向を汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込みをされた際に生活歴、生活環境や様子等をご本人やご家族、ケアマネ等から情報を得て、今までの生活を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様毎に生活リズムや状態に合ったケアをするように心がけている。また、特変があった際には記録や申し送り簿に記入し情報の共有化に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様がより良く生活が出来るようにご本人やご家族様や関係者等と話し合い、アイデアを取り入れたり、職員から意見を聞くなどして介護計画を作成している。	本人・家族の思いや、主治医の意見を聞き利用者主体の個別の介護計画を作成している。状態が変化したときには、話し合い計画を見直し、その都度作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に一日の様子や体調の変化や気づき、利用者様の希望なども記入している。また、朝夕の申し送り時には口頭で伝え、何かあれば話し合うようにしている。特変事項については日誌にも記入し共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の状況に合わせ、色々なサービスを考え提供するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域の老人会の方へ運営推進会議委員をお願いし、出席をお願いしている。また、学生のボランティアや他のボランティアの受け入れも積極的に実践している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス前からのかかりつけ医を希望される方には、そのまま変更なく受診していただいている。	本人・家族の希望するかかりつけ医に受診し、家族の同行を基本にしている。家族からの要望があれば、職員が代行している。受診時には、日々の健康記録を持参してもらい、受診結果は、家族と事業所が共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護師がいないが、何かあれば同法人内の看護師へ相談等している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、職員が必要な物を届けたり、面会へ行ったりしている。病院関係者と情報交換をしたり、相談をしながら入院前の生活に戻れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として出来る事と出来ない事を利用前に伝えている。話し合う機会を設け、十分に説明を行うようにしている。	入居時に、重度化や終末期について説明し、家族の要望や意見を聞いたり、事業所の方針を理解していただいている。利用者の状態の変化に応じて、家族や医療機関と連携をとり、本人・家族が安心できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を定期的に行っていないので、今後は全職員が対応できるように実践力を身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難経路や場所は決まっているが、夜間を想定しての訓練は実施していない。運営推進会議では地域の方へご協力をお願いしているが、今後も地域との協力体制を構築するようになっていきたい。	消防署の協力を経て、避難訓練をしている。水消火器での消火訓練・避難に要する時間を図ったり、利用者の行動を把握し、安全に避難できるように取り組んでいる。	地域の方に、避難訓練を行う日程をお知らせし、協力していただけるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入室する際には、利用者様へ了解を得るようにしている。入浴や排泄等にもさりげなく行うように心がけている。	一人ひとりの思いを大切に、その人に合った関わり方をするようにしている。親しくても馴れ馴れしくならないように、人生の先輩として尊敬し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と会話する際には、分かりやすい質問にしたり、ゆっくり聞く等工夫して会話をするよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調にも配慮しつつ、利用者様のペースや希望に出来る限り応じるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様に応じて、外出時には更衣を手伝ったり、本人の希望に沿って散髪、白髪染め等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際にはテーブル拭きや下膳等を職員と一緒にし、職員も同じテーブルに座り楽しく食事が出来るようにしている。その際に好みや食事を把握するようにし、希望に沿えるような献立にしている。	利用者の希望や、一緒に収穫した野菜・家族からいただいた食材を献立に取り入れている。その人の体調に合わせて、調理方法を変え、食べやすくするなど工夫している。行事に合わせて、利用者と職員と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様毎に食事、水分、排泄、睡眠時間等を把握できるように記録を記入し、各利用者様が不足のないように提供、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様に応じて声かけ、うがいや歯磨きの介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや仕草等を把握し、時間毎にトイレへ誘導しトイレで排泄が出来るように支援している。	表情やしぐさを見て、さりげなく声かけし、その人にあったトイレ誘導をしている。失敗するのが心配で、紙パンツにしている方に職員の声かけの工夫で、布パンツに替えることができ、生活の質の向上につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、水分摂取や便秘予防の為に各利用者様に依りて飲食物の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中のみの入浴になっているが、希望を聞きながら入浴できるようにしている。また、入浴剤の利用やゆず湯や菖蒲湯など楽しめるように心がけている。	服を脱ぐことを嫌がる利用者には、言葉かけを工夫し職員を替えたりするなど、リラックスして入浴してもらえるよう支援している。家族の方の協力を得て一緒に入ってもらい、安心して入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や様子、状況に応じて休息ができるように支援している。また、生活リズムを整えるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様毎に薬説をファイルし、いつでも確認できるようにしている。変更時には、記録以外にも口頭で申し送り、特変があった際には主治医やご家族へ連絡し、早めに受診するなどしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様や利用者様から生活歴や趣味、得意な事を聞きご本人が出来そうな事や得意な事で活躍できる場を設けるように心がけている。出来るだけ自分で出来る事は自分でできるように支援するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に沿えるように出来るだけ支援しているが、出来ない場合はご家族様へ相談し、ご協力をお願いしている。	天気の良い日は、事業所周辺を散歩している。近くの公園のふれあい芋煮会に参加し、地域の方に声をかけていただき交流の機会が増えている。家族の方と、食事や選挙に出かけるなど、外出できるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則は、持参しないようお願いしているが、利用者様の希望や力に応じて所持したり、預かったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも利用者様から希望があった際には、電話をかけたり手紙のやり取りが出来るように支援している。ご家族様から手紙や荷物が届いた際には、必ず荷主様へ電話をするようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	分かりにくい場所には、目印を付けたりして混乱しないようにしている。集まるダイニングには、日めくりカレンダーや鉢植え等を置いて生活感や季節感を取り入れている。	感染症予防対策に、温度や湿度の管理をこまめに行っている。利用者の体調に合わせて、席替えをするなど居心地良く過ごせるようにしている。ウッドデッキや畳が部屋もあり、季節感を感じたり、家庭的な雰囲気の中でくつろげる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にはソファを置いたり、ホーム内だけでなく駐車場にもベンチを設置するなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	利用前の説明時にご家族様へ自宅で使用していた馴染みの物を持参するようにお願いしている。利用者様が心地よく過ごせるようにアルバムを持参したり、写真を飾ったりする等の工夫をしている。	利用者の希望や身体状況に合わせて、ベッドの位置を変えたりしている。衣替えは、本人と職員が一緒に話し合っ、整理整頓している。ラジオやCDプレーヤーを持ち込み、音楽を聴いたり本を読んだり自由に過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリー、浴室やトイレには手すりの設置。ホーム内では、車イスでも安全に使用できるように家具の設置を心がけ、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫をしている。		